チェンナイ補習授業校

平成30（2018）年度

学校要覧

JAPANESE SCHOOL EDUCATIONAL TRUST OF CHENNAI

2018

＜目　　次＞

○　目次　１

○　チェンナイ補習授業校校歌　２

Ⅰ　学校沿革史　３ ～ ８

Ⅱ　学校の概要　８ ～ ９

Ⅲ　学校運営について　９ ～ １０

Ⅳ　学校経営計画　１１

Ⅴ　教育課程　１２ ～ １４

Ⅵ　学校運営委員一覧　１５ ～ １９

Ⅶ　関係規則

１　チェンナイ補習授業校規則　２０ ～ ２４

２　チェンナイ補習授業校における安全対策　２５ ～ ２６

校章について

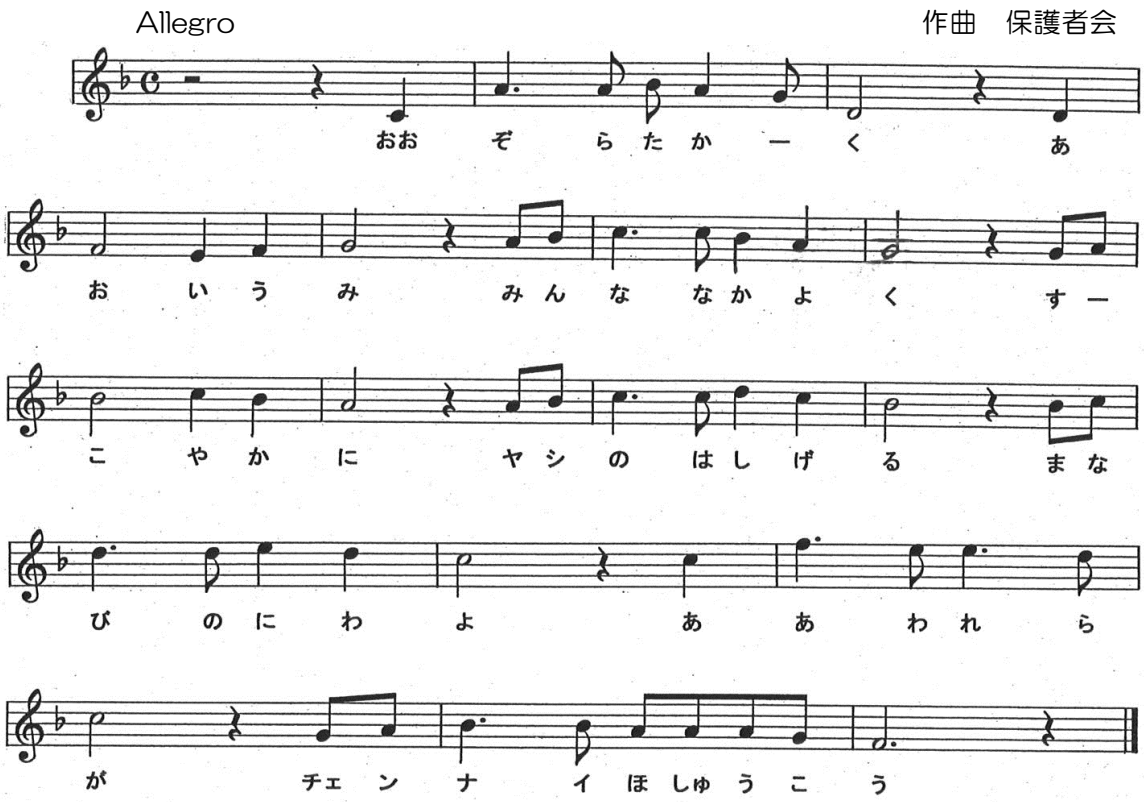
　１９７５年の創立から４０年を経た記念にと，児童・生徒が原案を考え，生まれた校章。

　中央にヤシの木。その両横には，稲穂。そして，それらの背景に描かれているのは，当地の伝統的な模様であるマドラスチェック。

　食生活の基となる大切な植物が大きく育つように，自然豊かなこの地で，共にすくすくと育っていこうという気持ちが込められています。

チェンナイ補習授業校校歌

作詞　会沢俊夫
作曲　保護者会



校歌

作詞　会沢俊夫
作曲　保護者会

一．大空高く　青い海
　みんな仲良く　すこやかに
　ヤシの葉茂る　学びの庭よ
　ああ我等が　チェンナイ補習校

二．真っ赤な太陽　両手にうけて
　みんな元気に　たくましく
　共に学ぼう　南の国で
　ああ我等が　チェンナイ補習校

三．故郷離れて　マドラスの
　広い大地を　踏みしめて
　明日への道を　歩みゆく
　ああ我等が　チェンナイ補習校

学　校　沿　革　史

＜昭和５０年度　(1975)＞
４月補習校設立の気運。６月マドラス日本語補習教室設立。週２回各家庭持ち回り授業。
留学生講師１名。

＜昭和５１年度　(1976)＞
９月新講師・留学生倉田氏。

＜昭和５２年度　(1977)＞

＜昭和５３年度　(1978)＞
４月倉田講師退任。新講師・留学生渡辺氏。

＜昭和５４年度　(1979)＞〔児童数４名〕
４月ニューデリー日本人学校より 10 日間巡回指導。自民党文教委員、桜内代議士一行来訪。

＜昭和５５年度　(1980)＞〔児童数９名〕
　初代派遣教員・松永佳正校長。４月渡辺講師退任。５月 Admilarity Hotel２部屋を校舎として使用。６月開校式。準全日制補習授業校発足。月～金 14:20～17:30、土曜 Special Class 実施。10 月文部省・大沢事務官一行来校。12 月シンガポール日本人学校より音楽集中指導。３月設備充実のため、在留法人８社より Rs.24,000 寄付（邦貨 67 万円）。

＜昭和５６年度　(1981)＞〔児童数 11 名〕
４月海外日本人学校視察教育団一行来校。７月ボンベイ日本人学校・神田校長来校。８月外務省査察官一行来校。11 月校舎移転。Mahindra Apartment12 月新校舎移転式典。３月卒業式。

＜昭和５７年度　(1982)＞〔児童数３名〕
３月派松永校長帰任。（児童数５、６名になれば再派遣考慮）

＜昭和５８年度(1983)＞〔児童・生徒数 10 名〕　※派遣教員なし
４月土曜日・日曜日午前中開校。富永洋子先生採用。１月松下電器よりテレビビデオセット寄贈。

＜昭和５９年度　(1984)＞〔児童・生徒数 14 名〕　※派遣教員なし
５月中曽根首相・安倍外相来印。教員派遣陳情。６月再派遣条件の準全日制授業再開。（水・金 16:30～18:30　土・日 9:00～12:00）。７月ガードマン設置　10～11 月インディラ・ガンディー首相暗殺事件、サイクロン襲来、州政府首相病気等で臨時休校重なる。

＜昭和６０年度　(1985)＞〔児童・生徒数８名〕　※創立１０周年
２代派遣教員・播摩久夫校長［東京都］。４月準全日制週５日午前授業開始。７月市街デモ行進のため休校。９月市街地デモのため休校。２月胆石の手術で播摩校長一時帰国。３月富永洋子教諭退職。

＜昭和６１年度　(1986)＞〔児童・生徒６名〕　※学校運営委員会発足
４月播摩校長帰任。５月「海外子女教育」記事掲載。６月外務省・山田中正審議官来校。補助教員 Mrs.チャンドラ採用。10 月クリアン玲子さん採用。文部省海外子女教育室中西治室長、小川照夫係長来校。３月補習授業校規則制定。

＜昭和６２年度　(1987)＞〔児童・生徒７名〕
３代派遣教員・横山哲郎校長［福岡県］。４月校舎移転。11 月マドラス市街デモ休校。12 月マドラス市街デモ休校。ＭＧＲ死去のため休校。

＜昭和６３年度　(1988)＞〔児童・生徒６名〕
11 月マドラス市街全面通行止めのため休校。靴工場見学。２月補習校校歌制定。

＜平成元年度　(1989)＞〔児童・生徒９名〕
６月幼稚園開園（幼児２名）。 外務省査察団来校。田中先生採用。11 月校内宿泊キャンプ。選挙により休校。１月海外子女作品コンクール学校賞受賞。餅つき大会。

＜平成２年度　(1990)＞〔児童・生徒６名〕
４代派遣教員・石井晃校長［山梨県］。６月幼稚園部開園（土曜午前授業）。10 月ストライキにより休校。２月暴動発生懸念により臨時休校。

＜平成３年度　(1991)＞〔児童・生徒３名〕
６月インド選挙後情勢不安臨時休校。11 月台風接近により臨時休校。２月暴動発生懸念により臨時休校。

＜平成４年度　(1992)＞〔児童・生徒 16 名〕
８月松本深雪さん採用。１月書初大会。２月日本人会運動会に参加。ソフトボール大会に参加。

＜平成５年度　(1993)＞〔児童・生徒 14 名〕
５代派遣教員・首藤賢司校長〔福岡県〕11 月海外子女教育課課長補佐・細江保司氏来校。１月クリアン玲子先生復職。

＜平成６年度　(1994)＞〔児童・生徒 15 名〕　※チェンナイアメリカンスクール開校
４月日本人学校設立要望書を政府提出。

＜平成７年度　(1995)＞
６月長谷川稔さん採用。７月高山あつ子さん採用。１月創立２０周年記念行事。

＜平成８年度　(1996)＞〔児童・生徒９名〕
６代派遣教員・都築淳郎校長〔埼玉県〕。８月オリンピック集会。　10 月大雨のため臨時休校。12 月政府高官死去のため臨時休校。２月豆まき会。写生会。

＜平成９年度　(1997)＞〔児童・生徒 12 名〕
９月「海外子女教育」記事掲載。11 月大雨休校。３月卒業遠足。

＜ 平成１０年度　(1998)＞〔児童・生徒 16 名〕
４月チェンナイ日本語補習校に校名変更。中学部設置。クリアン玲子さん採用。

＜ 平成１１年度　(1999)＞〔児童・生徒 20 名〕
７代派遣教員・棚橋幸治校長〔岐阜県〕。４ 月新井富美子さん採用。７ 月シーソー設置。在外公館・高田課長学校視察。９月総選挙のため終業式を一日繰上げ。外務省視察団来校。10 月大雨休校。
２月校舎移転。〔6/1VenusColonyⅡStreet，Alwarpet〕

＜平成１２年度　(2000)＞〔児童・生徒 17 名〕
４月準全日制（火～金の午後と土曜午前授業）5～6 月夏季休業。６月高山あつ子さん退任。
外務省人事課海外子女教育相談室長来校

＜平成１３年度　(2001)＞〔児童・生徒 17 名〕

＜平成１４年度　(2002)＞〔児童・生徒 11 名〕
８代派遣教員・吉崎安浩校長〔神奈川県〕。６月印パ緊張。派遣教員一時帰国。文部科学省内に連絡室を設置し連絡調整にあたる。10 月写生会（総領事館）ゼネスト休校。11 月大雨休校。海外子女教育振興財団根道氏視察。３月遠足・三菱商事エビ加工工場。補習校 HP 開設。クリアン玲子さん退任。

＜平成１５年度　(2003)＞〔児童７名・生徒４名　計 11 名〕
４月学校運営委員長・立川正博氏。７月タラマニ地区に完成したアメリカンインタースクール内教室に移転。３月卒業式（中学部３名、小学部１名）。

＜平成１６年度　(2004)＞〔児童５名・生徒１名　計６名〕　※アメスク創立１０周年
４月学校運営委員長・飯田博己氏。中村早苗さん採用。３月 16 日教育信託団体証書登録「チェンナイ補習授業校（Japanese School Educational Trust of Chennai)」名に変更。

＜平成１７年度　(2005)＞〔児童 13 名〕
９代派遣教員・野辺鉄也校長〔千葉県〕。４月学校運営委員長・吉田茂氏。16 日、入学式（小学部１名）５月総領事館見学。８月 PTA 総会。10 月３０日創立３０周年記念式典開催。11 月大雨のため休校。１月書き初め大会。３月６日ポプラ社取材。18 日卒業式（小学部１名）。

＜平成１８年度　(2006)＞〔児童 11 名〕
４月学校運営委員長・波多野敦氏。２日入学式（小学部１名・中学部１名）。５月７日 PTA 総会。１０日知事選挙結果発表に伴い、暴動発生の恐れのため第１期終業式。７月１０日アメスク校舎増築工事のため、「赤坂」を借りて第２期スタート。８月８日「赤坂」での授業終了。９日アメスクでの授業再開。９月１日第２期終業式。11 日第３期始業式。11 月 22 日アメスク主催ターキートロットに全員参加。12 月 15 日第３期終業式。１月９日第４期始業式。書き初め大会。３月 10 日乾電池作り教室。24 日卒業式。新井富美子氏退任。

＜平成１９年度　(2007)＞〔児童 12 名〕
４月学校運営委員長・波多野敦氏。小林憲枝さん採用。７日入学式（小学部１名）。５月６日授業参観及びＰＴＡ総会。１１日シン首相のチェンナイ訪問により、警備上アメスク前の道路が封鎖されるため臨時休校（第１期の終業式なし）。７月２日アメスク工事のため「赤坂」を借りて第２期スタート。８月３日「赤坂」での授業終了。６日アメスクでの授業再開。２４日第２期末ＰＴＡ。31 日第２期終業式。９月 10 日第３期始業式。22 日コマツ工場見学（文化委員会主催）。11 月 20 日アメスク主催ターキートロットに全員参加。１月８日第４期始業式。書き初め大会。２月１日節分。２日日本人会運動会。２１日にっぽん丸見学。２９日学年末ＰＴＡ。３月８日乾電池作り教室実施。１４日修了式。１５日卒業式（小学部３名）。卒業祝賀会＆お別れ会。

＜平成２０年度　(2008)＞〔児童８名・生徒３名　計 11 名〕
４月学校運営委員長・南收氏。６日入学式（小学部２名・中学部２名）。５月１８日授業参観及びＰＴＡ総会。７月アメリカンスクール内で、職員室・図書室の移動。１４日第２期始業式。８月１日日食観察会。１４日ＰＴＡ懇談会。２３日新体力テスト。９月２日第３期始業式。11 月５日味覚教室。２５日アメスク主催ターキートロット参加。12 月１２日お別れ会。１月５日第４期始業式。書初大会。２月スポーツ大会。３月１３日修了式。

＜平成２１年度　(2009)＞〔児童 15 名・生徒５名　計 20 名〕
１０代派遣教員・野本純一校長〔新潟県〕。４月学校運営委員長・秋山隆之氏。１８日入学式（小学部３名・中学部１名）。５月１０日授業参観及びＰＴＡ総会。６月２９日第２期始業式。８月２１日学習参観・ＰＴＡ懇談会、２２日新体力テスト。９月１日第３期始業式、１６日女子バスケットボール女子日本代表チームとの交流会。10 月１０日社会科見学（クボタ・インディア工場）。
12 月６日学習発表会（日本人会忘年会）「シンドバッドのぼうけん」発表。１月４日第４期始業式。８日書き初め会。

２月７日日本人会運動会参加。１８日ふじ丸見学（商船三井・領事館の協力により）。　３月５日学習参観・ＰＴＡ懇談会。１２日今沢カゲロウ氏（ベース忍者）コンサート。１９日修了式。２１日卒業式。

＜平成２２年度　(2010)＞〔児童 23 名・生徒９名　計 32 名〕

４月学校運営委員長・古市充氏。鈴木香里さん採用。１１日入学式（小学部４名・中学部２名）。５月９日学習参観・ＰＴＡ総会。８月１３日学習参観・ＰＴＡ懇談会。９月１日第２期始業式。10 月３０日社会科見学（ルノー日産インディア工場）。12 月５日学習発表会（日本人会忘年会）「赤い花白い花、コックのポルカ、世界が一つになるまで」発表。１８日ＮＨＫ地球ラジオ「ぼくたちわたしたち元気だよ」出演。１月１０日第３期始業式。１７日書き初め会。２月１３日日本人会運動会参加。３月５日学習参観・ＰＴＡ懇談会。１８日修了式。１９日卒業式。鈴木香里さん退任。

＜平成２３年度　(2011)＞〔児童 31 名・生徒６名　計 37 名〕

１１代派遣教員・土井英正校長〔シニア・兵庫県〕。４月学校運営委員長・谷口健一氏。江本美也子さん採用。15 日臨時保護者会。17 日入学式（小学部３名・中学部１名）。５月８日学習参観・PTA 総会。２３日臨時保護者会。６月３日代表者交流会（保護者サポートについて）。アメスク・バリー理事長（10 年間在任）米国帰国。８月フーバー新理事長着任。教室入替。12 日学習参観・保護者懇談会、20 日新体力テスト。25 日中野正則総領事とフーバー理事長が会談。９月 17 日外務省在外公館課福島功一行視察。18 日日本人会ソフトボール大会。11 月６日ソフトバレーボール大会。7 日滝澤州理事（海外子女教育財団）学校訪問。９日ボンベイ日本人学校（児童生徒 11 名引率教師３名）学校間交流。12 日コベルコ工場（アンドラ）社会科見学。12 月４日学習発表会（日本人会忘年会）アシアナホテル。６日文科省国際課首藤弘明係長学校訪問。１月 14 日書初会 ２月１日新入生保護者説明会。進路指導先輩講演会（大角光司氏・山城章氏）。12 日日本人会運動会。14 日世界青年の船寄港。17 日山本新治氏（三菱商事）教育相談会。３月４日学習参観・保護者懇談会。11 日卒業式。16 日修了式。18 日日印国交樹立 60 周年親善サッカー大会。

＜平成２４年度　(2012)＞〔児童 39 名・生徒６名　計 45 名〕

４月学校運営委員長・入江茂雄氏。伴野みづほ先生、小川祐三先生採用。８日入学式（小学部８名、中学部３名）。14 日臨時保護者会。５月４日子どもの日のつどい。13 日授業参観・PTA 総会。８月７日七夕集会。２０日体力テスト。９月１１日ソフトボール大会。２２日新体力テスト。11 月６日ソフトバレーボール大会。12 月４日学習発表会（日本人会忘年会）、アシアナホテルで。１月１３日２分の１成人式。書き初め会。２月２日土曜教室（節分行事）。４日先輩と語る会（田村真由香さん）。17 日日本人会運動会。３月４日授業参観・保護者懇談会。１５日修了式。１７日卒業式。土井校長帰任。中村早苗さん退任。

＜平成２５年度　(2013)＞〔児童 61 名・生徒 14 名　計 75 名〕

１２代派遣教員・末永和彦校長〔シニア・埼玉県〕。４月学校運営委員長・光常祐樹氏。鈴木優先生、德丸知都香先生採用。７日平成２５年度始業式・入学式（小学部６名・中学部５名）。１８日教育信託団体証書登録「チェンナイ補習授業校（Japanese School Educational Trust of Chennai）」の再登録。５月５日授業参観・懇談会、ＰＴＡ総会。２５日土曜学級①（チャレンジランキング）。８月７日休校（大統領訪問による渋滞のため）８日七夕集会。２４日土曜参観・懇談会。２５日ドッジボール大会（日本人会）。２６日～３０日静岡大学教育学部杉崎准教授実践授業①。　９月７日新体力テスト。２１日土曜学級②（父親学級＝土曜授業体験）。10 月１９日社会科見学（ルノー日産工場）11 月１６日授業参観・懇談会。２３日光常運営委員長帰国に伴い入江運営委員長就任。12 月５日天皇陛下・皇后陛下チェンナイ訪問。８日学習発表会(日本人会忘年会)、チョーラホテルで。１月１１日２分の１成人式。書き初め会。２月１日土曜学級③（父親学級＝節分会、ドッジボール大会）。１６日日本人会運動会参加。

３月２日～６日静岡大学教育学部杉崎准教授実践授業②。１４日修了式・離任式。１６日卒業式（小学部９名・中学部５名）。
伴野みづほ先生・小川祐三先生・傳隆司さん退任。

＜平成２６年度　(2014)＞〔児童 75 名・生徒 18 名　計 93 名〕
４月学校運営委員長・石塚新也氏。小川達夫先生、松浦勝先生、伊藤純代先生、中津畑桜先生採用。６日着任式・始業式・入学式（小学部９名・中学部７名）。中学部土曜日補習授業開始。２４日臨時休校（選挙投票日のため）５月３日授業参観・懇談会・ＰＴＡ総会。８月９日～１４日静岡大学教育学部杉崎准教授実践授業③。２３日臨時 PTA 総会（規約改定等）。２５日～３０日学校公開週間。９月８日補習校教育説明会。１３日新体力テスト（日本人会体育委員会協力）。２０日～１１月８日ボランティア講師授業（中学部、数学・理科）。２７日休校（州首相裁判判決に係る暴動予測のため）。10 月１日前期終業式。６日後期始業式。７日緊急下校（２校時、１５分短縮授業、裁判判決に関わる不穏な情勢のため）。１８日休校（大雨による交通障害予測のため）
11 月４日海外子女教育振興財団・中村雅治理事長訪問。６日ムンバイ日本人学校・根本校長以下教師４名、児童生徒１４名の訪問交流。８日父親学級①「社会科見学事前授業・電気のはなし」。１５日社会科見学（小４～中３）、東芝ＪＳＷ社。12 月７日学習発表会（日本人会忘年会）タージコロマンデルホテル１月１７日２分の１成人式。書き初め会。２月７日校章制定。父親学級②（小学部）。節分会。社会科・図工科授業。８日創立４０年記念祝賀会（パークハイヤットホテル）。１５日日本人会運動会参加。２８日授業参観・懇談会。３月１３日小学部修了式。１４日中学部修了式。離任式。１５日卒業式（小学部１０名・中学部４名）。末永校長帰任。鈴木優先生、徳丸知都香先生、伊藤純代先生退任。
＜平成２７年度　(2015)＞〔児童 68 名・生徒 20 名　計 88 名〕
13 代派遣教員・吉川容司校長〔シニア・千葉県〕。４月学校運営委員長・平野智彦氏。高橋理先生、安永孝子先生、清水太朗先生採用。12 日着任式・始業式・入学式（小学部８名・中学部８名）。
５月２日授業参観・懇談会、３０日ＰＴＡ総会。８月７日七夕集会。２３日ドッジボール大会（日本人会）。９月５日新体力テスト。10 月１７日授業参観・懇談会。11 月１６日大雨により小学部休校。２９日学習発表会（日本人会忘年会）。12 月１・３・４・７日大雨により小学部休校。５日大雨により社会科見学延期。１月３０日社会科見学（ヤマハ発動機工場見学）２月豆まき集会。１４日日本人会運動会参加。２７日２分の１成人式・懇談会。３月２０日卒業式（小学部１０名、中学部５名）。小川達夫先生、中津畑桜先生退任。

＜平成２８年度　(2016)＞〔児童 58 名・生徒 21 名　計 79 名〕
４月学校運営委員長・豊永博英氏。清水愛先生、安達愛先生採用。３日着任式・始業式・入学式（小学部１０名・中学部７名）。２３日授業参観・懇談会・ＰＴＡ総会。５月１６日臨時休校（州議会選挙の投票日のため）。１８日雨のため小学部休校。６月３日～８日（５日間）中学部夏期特別授業。８月８日七夕集会。２１日ドッジボール大会（日本人会）。２７日新体力テスト。３０日雨のため臨時休校。10 月１３～１５日学校公開日。11 月９日旧高額紙幣の使用不可に。12 月３日父親学級、社会科見学事前授業（いすゞ自動車）。４日学習発表会（日本人会忘年会）。６日～８日州首相死去に伴い休校。１２～１４日サイクロン襲来のため休校。１月１０日～１４日書初週間。１７日元州首相ラマチャンドラ氏生誕百周年のため祝日。２３日牛追い行事禁止判決に対する講義運動が起こったため、臨時休校。２月３日豆まき集会。４日授業参観。１２日日本人会運動会参加。３月１２日卒業式（小学部５名、中学部２名）。松浦勝先生、高橋理先生、安永孝子先生、清水太朗先生退任。

＜平成２９年度　(2017)＞〔児童 48 名・生徒 15 名　計 63 名〕
４月学校運営委員長・浦本大氏。芝田進先生、芝田幸子先生、箱崎作次先生、箱崎陽子先生採用。２日着任式・始業式・入学式（小学部９名・中学部２名）。２２日授業参観・ＰＴＡ総会。
６月１日～３日７月３１日，８月７日～９日（計７日間）中学部夏期特別授業。１１日七夕集会。

２６日新体力テスト。**10 月**芝田進先生、芝田幸子先生退任。**3月**１８日卒業式。吉川容司校長先生、天野愛先生退任。

＜平成３０年度　(2018)＞〔児童５３名・生徒 １０名　計 63 名〕
４月 14 代派遣教員・吉本　卓校長〔シニア・大阪府〕。学校運営委員長・永利拓也氏。園部純三先生、渡部潤一先生、梅沢せなみ先生採用。
８日着任式・始業式・入学式（小学部６名・中学部５名)。21 日授業参観・保護者総会。
６月１日，**７月**３１日，**８月**１日～８日（計９日間）中学部夏期特別授業。18 日授業参観。
９月１日新体力テスト。

Ⅱ　学校の概要

１．学校名・所在地・連絡先
チェンナイ補習授業校（準全日制補習校）
Inside American International School Chennai, 100 Feet Road, Taramani, Chennai 600113 INDIA
Tel：0091-44-2254-2912
e-mail：jsetoc@jschennai.org.in
ホームページ：http://jschool2013.jimdo.com

２．運営母体　：Japanese School Educational Trust of Chennai（代表　秋元　聡）
補助団体　：チェンナイ日本人会（会長　小熊　伊知郎）

３．入学金・授業料（平成３０年度）
入学金　小学部　Rs. 12,500　　中学部　Rs. 12,500
授業料　小学部　Rs. 12,500　　中学部　Rs. 12,500（それぞれ月額）

※今年度から入学金・授業料にＧＳＴ（18%）が課税されます。

４．
施設・設備

室数	教室＝6，　職員室＝1，　図書・教具室＝1
建物の状況	現在の建物〔American International School〕に移転して 14 年目。
契 約 者	貸　　主：American International School Chennai 借　　主：Japanese School Educational Trust of Chennai
借料及び 契約期間	借　　料：月額 Rs. 25,000（契約通貨＝インドルピー）　※家賃のみ 契約期間：平成３０年４月１日より月次更新

＜教室配置＞

<table>
<tr><td colspan="5">アメリカンスクール校舎</td><td>通　路</td><td>AISC　管理棟（事務室）</td></tr>
<tr><td>MC－D
小学５年
中学２年</td><td>MC－C
小学３年
中学３年</td><td>MC－B
小学２年</td><td>MC－A
小学１年</td><td rowspan="2">Madras
Cafe</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">Madras Hall</td></tr>
<tr><td></td><td>倉　庫</td><td>倉　庫</td><td>倉　庫</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>MC-11
小学６年
中学１年

※英会話
教室</td><td>MC-10
小学４年
(中学部
昼食室)</td><td>事務室
(職員室)</td><td>韓国校
事務室</td><td>MC-7
図書
室他</td><td>＜</td><td>フレ
F
5</td><td>ンチ
F
4</td><td>教
F
3</td><td>室›
F
2</td><td>ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ室</td><td>託
児
所</td><td>トイレ</td></tr>
</table>

※教室面積 ： MC―A～D＝45m^2．　MC―10・11＝65m^2，　MC―7＝33ｍ^2，

MC―9(職員室)＝33ｍ^2

Ⅲ　学校運営について

1．本校設置の目的

本校は、チェンナイ及びその近郊に在住する日本人子女に対して、現地校の教育で補うことができない日本人として必要な教育を、文部科学省の示す学習指導要領を指針として行うことを目的とし、チェンナイ日本人会により設立されたものである。2013 年３月、非営利目的教育団体としてタミルナド州政府より認可取得し法人化し独立運営。

2．教育の目的

本校は、日本の教育関係法規の精神に沿い、児童・生徒の知的・精神的・情操的な発達による人格の形成を目指すと共に、世界の平和と国際理解，親善促進のための正しい認識を培う教育実践を目的としている。

3．評議員会

学校運営の重要事項の処理について、必要に応じ審議を行う。

役　職	氏　名	勤　務　先
代表取締役	秋元　聡	秋平
取　締　役	番場　俊光	アルソック
評議委員	谷口　裕子	在チェンナイ日本国総領事館
評議委員	小熊　伊知郎	チェンナイ日本人会（会長）
評議委員	川島　理生司	チェンナイ日本商工会（会長）

４．学校運営委員会

運営はチェンナイ日本人補習授業校が行い、チェンナイ日本人会から学校運営委員長を派遣する。学校運営委員会にて、本校規則に基づき、学校の運営に関する一切の事項を審議し執行する。また、同委員会は、その他必要と認める学校運営に関する事項については、日本人会に報告し、協議するものとする。学校運営委員会は次により選出し、学校運営委員会を構成する。

〇日本人理事会より　　１名以上　（学校運営委員長の任に当たる）
〇総領事館代表　　１名以上　（オブザーバーとして）
〇日本人会に所属する法人より　複数名

職　務	氏　名	勤　　務　　先
運営委員長	永利　拓也	スリーボンド
副委員長	加藤　顕	クボタ
監　　査	合田　潤	ＫＰＭＧ
会計委員	岡　利治	日産自動車
会計委員	木谷　信隆	みずほ銀行
委　　員	上田　浩人	三菱東京ＵＦＪ銀行
委　　員	相田　和賢	ＮＴＴコミュニケーションズ
委　　員	三輪　剛	日産自動車
委　　員	田中　一圭	ブリヂストン
委　　員	藤澤　秀麿	東北特殊鋼
委　　員	堤　　之義	コベルコ建機
委　　員	大西　信成	ヤマハ発動機
委　　員	吉本　卓	チェンナイ補習授業校

５．学校職員

役　職	担　任	氏　名	備　　考
校　　長		吉本　卓	平成３０年度文部科学省派遣教員
教　　員	小１・中２・３副	安達　愛	平成２８年度採用専任講師
教　　員	小６・中１副	箱崎　作次	平成２９年度採用専任講師
教　　員	小４	箱崎　陽子	平成２９年度採用専任講師
教　　員	小５・中３	園部　純三	平成３０年度採用専任講師
教　　員	小３・中２	渡部　潤一	平成３０年度採用専任講師
教　　員	小２・中１	梅沢　せなみ	平成３０年度採用専任講師
事 務 員		S.Kannan (カンナン)	平成２４年度採用
運 転 手		S.Valsalan (バルサラン)	平成２６年度採用

Ⅳ　学校経営計画

１．本校の教育目標

『 確かな学びと国際感覚豊かな子どもの育成 』

～ 生きる力を育み　地球を舞台にはばたく子の育成 ～

（１）基礎・基本の学力の定着

（２）国際社会に生きる感性豊かな心の育成

（３）健康で心身ともにたくましい子の育成

２．学校経営の基本方針

（１）日本帰国を見据えた基礎学力の維持・定着。【「わかる・できる」のある楽しい授業】
国語、算数・数学を中心とした基礎基本的な知識・技能を身に付けさせる。思考力・判断力・表現力を高めるための授業の改善を図る。「自力解決学習」の定着を目指す。

（２）「生きる力」をグローバルな視点で考えさせる。【アイデンティティーの確立】
日本人としての誇りをもち、礼儀正しく、世界に通用する国際感覚をもった児童・生徒の育成をめざす。

（３）「日本式の教育方法で学ぶ」日本では当たり前のことを，当たり前にできる子の育成。
正しい姿勢、返事やあいさつ、聞く態度など日本の学校生活や授業で必要最低限なことの定着を目指し指導の徹底を図る。

（４）児童生徒の自主性・自立性をもたせ、その伸長を図る。【「自己表現力」を育てる教育活動】
学級活動や諸行事へ積極的に関わることを通して、他者から認められることの喜びや自分たちで学校を動かしていく達成感を味わわせながら自己を生かす能力を養う。

（５）たくましい「こころ」と「からだ」が育つ教育環境作りに努める。【日本人会・家庭・学校運営員会との連携】学校だけでなく、家庭や日本人会など、ここチェンナイでの多くの人々との関わりの中で学ぶ「人の優しさ」から、相手を思いやる優しい心ときまりを守る強い心の醸成。

３．本年度の指導の重点

（１）学習面・生活面ともに，『基礎・基本』の徹底に努める。

（２）常に自ら考え，行動することを意識化する。そして，それが学習面では学ぶ喜びにつながるように，また生活面では自分の身は自分で守ることにつながっていくようにさせる。

４．教科指導の重点（「基礎・基本」の習得）

【国語】
言語事項（漢字・語彙）、読み、作文の指導に重点を置き、正しい日本語を使って適切に表現できる力を伸ばす。

【算数・数学】
数量や図形に対しての基礎的な知識と技能、数学的な考え方の基礎を身に付ける。

【社会・理科】
内容を精選し、インターネットなどの情報機器を活用しての調査活動や作業・実験を通し、基礎的・基本的な内容を知る。

【生活】
具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々や自然等に関心をもち、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、生活において進んで行動する自立への基礎・基本を養う。

【音楽】・【体育】
学校行事を通して、その教科の目標に迫る手だてをとり、体験することにより基礎的な内容を理解させる。

Ⅴ　教育課程

1．平成３０年度授業日数及び課業期間

（1） 年間授業日数　小学部 166・167 日（38 週）・中学部 59 日（37 週）、計２１５日

（2） 授業日及び週授業単位時間

○　小学部：月～金の午後、２単位時間×５日＝１０単位時間（４５分授業）

○　中学部：土曜日　　６単位時間×１日＝　６単位時間（５０分授業）

○　総授業単位時間数＝小学部：３４２単位時間、中学部：３０９単位時間

（3） 各学期の授業日数と各休業期間

前期	４月１日～１０月７日（９８日間）	学年始休業	４月　１日～　４月　７日
		夏季休業	６月　４日～　７月３０日
		秋季休業	９月２９日～１０月　７日
後期	１０月８日～３月３１日（１１７日間）	冬季休業	１２月２３日～　１月１５日
		学年末休業	３月２５日～　３月３１日

2．時間割

	月		火		水		木		金	
	１校時	２校時	１校時	２校時	１校時	２校時	１校時	２校時	１校時	２校時
小１	国語	国語	算数	国語	国語	国/生	算数	国語	国語	算数
小２	国語	国語	算数	国語	国語	国/生	算数	国語	国語	算数
小３	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	社会	国語	理科
小４	算数	国語	国語	算数	国語	算数	国語	社会	国語	理科
小５	算数	国語	社/理	算数	国語	算数	国語	社会	国語	理科
小６	算数	国語	社/理	算数	国語	算数	国語	社会	国語	理科

土曜日	１	２	３	４	５	６
中１	社会	国語	国語	数学	数学	理科
中２	国語	国語	理科	社会	数学	数学
中３	数学	数学	国語	国語	社会	理科

3．学年別・教科別授業時間数（標準授業時数）

	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
国　語	２２２ (306)	２２２ (315)	１２０ (245)	１２０ (245)	１２０ (175)	１２０ (175)	９８ (140)	９５ (140)	９４ (140)
算数・数学	９５ (136)	９５ (175)	１１０ (175)	１１０ (175)	１０８ (175)	１０８ (175)	９７ (140)	９４ (140)	９３ (140)
社　会			４８ (70)	４８ (90)	４９ (100)	４９ (105)	５０ (105)	５３ (105)	５４ (140)
理　科			４８ (90)	４８ (105)	４９ (105)	４９ (105)	５０ (105)	５３ (140)	５４ (140)
生　活	９ (102)	９ (105)							
行事等	１６	１６	１６	１６	１６	１６	１４	１４	１４

４．時程

（１） 小学部（月～金）

始めの会	１５：５０ ～ １５：５５
第１校時	１５：５５ ～ １６：４０
休　　憩	１６：４０ ～ １６：５０
第２校時	１６：５０ ～ １７：３５
帰りの会	１７：３５ ～ １７：４０

（２） 中学部（土曜日）

朝 の 会	８：４０ ～ ８：４５
第１校時	８：４５ ～ ９：３５
第２校時	９：４０ ～ １０：３０
休　　憩	１０：３０ ～ １０：４０
第３校時	１０：４０ ～ １１：３０
第４校時	１１：３５ ～ １２：２５
昼食・休憩	１２：２５ ～ １３：１０
第５校時	１３：１０ ～ １４：００
第６校時	１４：０５ ～ １４：５５
帰りの会	１４：５５ ～ １５：０５

（３） 中学部（水曜日）※アメリカンスクールのアーリーリリースの日に実施。

はじめの会	１４：１０ ～ １４：１５
１時間目	１４：１５ ～ １５：００
２時間目	１５：０５ ～ １５：５０
３時間目	１６：００ ～ １６：４５
４時間目	１６：５０ ～ １７：３５
帰りの会	１７：３５ ～ １７：４０

5．Ｈ３０年度年間授業計画（予定）

平成30年度　チェンナイ補習授業校年間予定

※事情により変更するかもしれません　　作成日：8月18日

日	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	日 春季休業日	火 △5	金 AISC終了日 中11	日	水 中14	土 新体力テスト 中24
2	月	水 △6	土 中12 小・前期前半終了	月	木 中15	日
3	火	木	日	火	金 中16	月
4	水	金 こいのぼり集会	月 夏季休業日	水	土 中17	火
5	木	土 個人面談 中6 △	火	木	日	水 ★中25
6	金	日	水	金	月 中18	木
7	土 入学式準備	月 個人面談	木	土	火 中19	金
8	日 始業式・入学式	火 個人面談	金	日	水 中20	土 中26
9	月 小学部授業開始	水 ★中7	土	月	木 小・前期後半開始	日
10	火	木 個人面談	日	火	金	月
11	水 中2	金 個人面談	月	水	土 中・前期後半開始 中学部21	火
12	木	土 個人面談 中8	火	木	日	水
13	金	日	水	金	月	木
14	土 Tamil New Year 中3	月 個人面談	木	土	火	金
15	日	火 個人面談	金	日	水 Indian Independence Day	土 中27
16	月	水 個人面談	土	月	木	日
17	火	木 個人面談	日	火	金	月
18	水	金 個人面談	月	水	土 授業参観 中学部22	火
19	木	土 個人面談 中9	火	木	日	水 ★中28
20	金	日	水	金	月 （身体測定週間）△1	木
21	土 中・4 授業参観 保護者会	月	木	土	火 △2	金
22	日 日本人会総会	火	金	日	水 △3	土 中・前期終業式 中29
23	月 △1	水	土	月	木 △4	日
24	火 △2	木	日	火	金 △5	月
25	水 ★中5	金	月	水	土 中23 △中	火
26	木 △3	土 中10	火	木	日	水
27	金 △4	日	水	金	月 △6	木
28	土 May Day Long Weekend	月	木	土	火	金 小・前期終業式
29	日	火	金	日	水	土
30	月 May Day	水	土	月	木	日 秋季休業日 [illegible]
31		木 小・前期前半終了		火 中13	金	
授業日数	小：15 中：8	小：22 中：5	小：0 中：2	小：0 中：1	小：17 中：10	小：19 中：6
行事	※始業式 ※入学式 授業参観 懇談会 PTA総会	こいのぼり集会 個人面談	夏休み	夏休み	懇談会 授業参観	新体力テスト 小・前期終業式 秋季休業日
前期累計	小：15 中：8	小：37 中：10	小：37 中：12	小：37 中：13	小：54 中：23	小：73 中：29
授業日数	18日	27日	2日	1日	26日	24日

※印 行事のみの日（授業無し）　　△印は懇談会

★印はアメスク教員研修日（8月以降は見込み）

日	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	月	木	土 発表会練習 中40	火 元日	金 豆まき集会	金
2	火 Gandhi Jayanti	金 個人面談	日 [illegible]	水	土 授業参観 中48	土 中54
3	水	土	月 振替休業日	木	日	日
4	木	日	火	金	月	月
5	金	月 Diwali	水	土	火	火
6	土	火	木	日	水 ★中49	水
7	日	水	金 新入生保護者説明会	月	木	木
8	月 小・後期始業式	木	土 中42	火	金	金
9	火	金	日	水	土 中50	土 中55
10	水 ★中30	土 中35	月	木	日 ※運動会（中51）	日
11	木	日	火	金	月 振替休業日	月
12	金	月	水 ★中43	土	火	火
13	土 中・後期始業式 31	火	木	日	水	水
14	日	水 ★中36	金	月 Pongal	木	木
15	月	木	土 中44	火	金	金
16	火	金	日	水 小・後期後半開始	土 中52	土 中56
17	水	土 社・事前 ※授業参観 中37	月	木 書き初め週間	日	日
18	木 [illegible]	日	火	金	月 （身体測定週間）	月
19	金	月	水	土 △中 中学部46 中・後期後半開始	火	火
20	土 中32	火	木	日	水 ★中53	水 ★中57
21	日	水	金 小・後期前半終了	月 △1	木	木
22	月 個人面談	木	土 中・後期前半終了 中45	火 △2	金 February Long Weekend	金 小学部修了式
23	火 個人面談	金 [illegible] Thanksgiving Day	日 [illegible]	水 ★中47	土	土 中学部 中学部修了式
24	水 ★中33	土	月	木 △3	日	日 ※卒業式（中59）
25	木 個人面談	日	火	金	月	月 春季休業日
26	金 個人面談	月	水	土 Indian Republic	火	火
27	土 中34 中・遠足	火	木	日	水	水
28	日	水 ★中38	金	月 △4	木	木
29	月 個人面談	木	土	火 △5		金
30	火 個人面談	金	日	水 △6		土
31	水 個人面談		月	木		日
授業日数	小：16 中：5	小：17-18 中：5	小：15 中：6	小：10 中：2	小：18 中：6	小：16 中：6
行事	小・後期始業式 個人面談 [illegible]	Diwali 社・事前学習 ※遠足 ※社会科見学	新入生保護者説明会 ※補習授業校発表会	書き初め週間 懇談会	豆まき集会 授業参観 ※運動会	修了式 ※卒業式 2019年度入学式予定日 4/7
後期累計	小：16 中：5	小：34-35 中：10	小：49-50 中：16	小：59-60 中：18	小：77-78 中：24	小：93-94 中：30
授業日数	21日	22日	19日	12日	22日	21日

※ 社会科見学により、小学部の授業時数は、各学年が1時間少なくなっています。

前期	後期	計
前期：小73、中29	後期：小93-94、中30	計：小166日/167日,中59日
授業日数：96日	授業日数：117日	総授業日数：216日

Ⅵ　学校運営委員一覧(１９８６年度～)

＜昭和６１年（１９８６年）度＞

委員長	藤原　邦衛	住友商事	委　員	中嶋　克比古	三井物産
委　員	長雍　久	丸紅	委　員	内田　政憲	三菱商事
委　員	会沢　俊夫	日商岩井	経　理	白川　五郎	松下電器
委　員	浜田　武文	海外貨物検査	委　員	播磨　久夫	補習授業校

＜昭和６２年（１９８７年）度＞

委員長	市川　良平	丸紅	委　員	浜田　武文	海外貨物検査
委　員	出口　光次	日商岩井	委　員	木村　俊明	松下電器
委　員	池野（領事）	総領事館	監　事	白川　五郎	松下電器
委　員	宗宮　浩一郎	住友商事	監　事	上野　雅敏	三井物産
委　員	中嶋　克比古	三井物産	委　員	横山　哲郎	補習授業校
委　員	内田　政憲	三菱商事			

＜昭和６３年（１９８８年）度＞

委員長	栗原　建司	三菱商事	委　員	鈴木　隆	総領事館
委　員	大角　幸彦	丸紅	監　事	市川　良平	丸紅
委　員	会沢　俊夫	日商岩井	監　事	上野　雅敏	三井物産
委　員	西田　尚	インドナショナル	渉　外	深瀬　渉	住友商事
委　員	高橋　功二	三井物産	委　員	横山　哲郎	補習授業校
委　員	浜田　武文	海外貨物検査			

＜平成元年（１９８９年）度＞

委員長	近藤　令矢	住友商事	委　員	則武　陽二	三井物産
委　員	西田　尚	インドナショナル	委　員	内田　政憲	三菱商事
委　員	会沢　俊夫	日商岩井	委　員	鈴木　隆	総領事館
委　員	小篠　美知人	インドナショナル	監　事	市川　良平	丸紅
委　員	森　敦史	住友商事	監　事	上野　雅敏	三井物産
委　員	大角　幸彦	丸紅	委　員	横山　哲郎	補習授業校

＜平成２年（１９９０年）度＞

委員長	藤森　茂典	松下電器	委　員	森　敦史	住友商事
委　員	大角　幸彦	丸紅	委　員	小篠　美知人	インドナショナル
委　員	松下　幹彦	日商岩井	委　員	鈴木　隆	総領事館
委　員	中村　裕一	三井物産	監　査	西田　尚	インドナショナル
委　員	田中　芳郎	三井物産	委　員	石井　晃	補習授業校

＜平成３年（１９９１年）度＞

委員長	宮川　隆	丸紅	委　員	楠　木克　昌	日商岩井
委　員	森　敦史	住友商事	委　員	米　川信　修	松下電器
委　員	則武　陽二	三井物産	委　員	河　野好　行	総領事館
委　員	中西　敏明	三菱商事	監　査	小　篠美知人	松下電器
委　員	西橋　時男	丸紅	委　員	石　井晃	補習授業校

＜平成４年（１９９２年）度＞

委員長	遠藤　鷹志郎	日商岩井	委　員	栗生沢　実	三井物産
委　員	森敦　史	住友商事	委　員	内田　治男	インドナショナル
委　員	武藤　修司	三国工業	委　員	河野　好行	総領事館
委　員	中西　敏明	三菱商事	監　査	小篠　美知人	松下電器
委　員	西橋　時男	丸紅	委　員	石井　晃	補習授業校
委　員	楠木　克昌	日商岩井			

＜平成５年（１９９３年）度＞

委員長	栗生沢　実	三井物産	委　員	田口　眞人	三菱商事
委　員	西橋　時男	丸紅	委　員	内田　治男	インドナショナル
委　員	柳　浩輔	日商岩井	委　員	今井　豊司	総領事館
委　員	山口　浩	住友商事	委　員	首藤　賢司	補習授業校

＜平成６年（１９９４年）度＞

委員長	松倉　達文	丸紅	委　員	岩橋　秀樹	三井物産
委　員	小野寺兼一郎	ハッピーワールド	委　員	河野　拓司	インドナショナル
委　員	柳　浩輔	日商岩井	委　員	今井　豊司	総領事館
委　員	山口　浩	住友商事	委　員	首藤　賢司	補習授業校
委　員	田口　眞人	三菱商事			

＜平成６年度　日本人学校設立準備委員会＞

委員長	井口　順	住友商事	副委員長	山　本順	松下カーボン
副委員長	田口　眞人	三菱商事	委　員	栗生沢実	三井物産
委　員	山口　浩	住友商事	委　員	西　橋時　男	丸紅
委　員	柳　浩輔	日商岩井	委　員	内　田治　男	インドナショナル
委　員	河野　拓司	インドナショナル	委　員	落　合俊　哉	三国工業
委　員	犬竹　太	森村商事	顧　問	松　倉達　文	丸紅
顧　問	今井　豊司	総領事館	委　員	首　藤賢　司	補習授業校

＜平成７年（１９９５年）度＞

委員長	井　口順	住友商事	委　員	河野　拓司	インドナショナル
委　員	江　本健	中山商店	委　員	錦織　章一	開成商事
委　員	柳浩　輔	日商岩井	委　員	藤本　岩夫	アジアンアクアカルチャー
委　員	大久保貴　由	住友商事	委　員	今井　豊司	総領事館
委　員	岩　橋秀　樹	三井物産	委　員	首藤　賢司	補習授業校

＜平成８年（１９９６年）度＞

委員長	宇佐美　栄男	住友商事	委　員	藤本　岩夫	アジアンアクアカルチャー
委　員	小野寺兼一郎	ハッピーワールド	委　員	山口　浩	住友商事
委　員	江本　健	中山商店	委　員	木下　裕治	総領事館
委　員	河野　拓司	インドナショナル	委　員	都築　淳郎	補習授業校
委　員	小川　隆	三菱商事			

＜平成９年（１９９７年）度＞

委員長	宇佐美　栄男	住友商事	委　員	山崎　洋一	テルモ
委　員	小野寺兼一郎	ハッピーワールド	委　員	木下　裕治	総領事館
委　員	江本　健	中山商店	委　員	都築　淳郎	補習授業校
委　員	小川　隆	三菱商事			

＜平成１０年（１９９８年）度＞

委員長	駒沢　秀太郎	日商岩井	委　員	山崎　洋一	テルモ
委　員	江本　健	中山商店	委　員	木下　裕治	総領事館
委　員	平野　直人	小糸製作所	委　員	都築　淳郎	補習授業校
委　員	横井　裕明	三菱商事			

＜平成１１年（１９９９年）度＞

委員長	内田　敬一郎	三菱商事	委　員	武藤　隆	三井物産
委　員	山崎　洋一	テルモ	委　員	安部　昌伸	松下電池
委　員	横井　裕明	三菱商事	委　員	脇田　慶和	総領事館
委　員	江本　健	中山商店	委　員	木下　裕治	総領事館
委　員	平野　直人	小糸製作所	委　員	棚橋　幸治	補習授業校

＜平成１２年（２０００年）度＞

委員長	前川　誠二	松下電器	委　員	武藤　隆	三井物産
委　員	安部　昌伸	松下電池	委　員	脇田　慶和	総領事館
委　員	中村　政道	松下電器	委　員	溝淵　幸治	総領事館
委　員	横井　裕明	三菱商事	委　員	棚橋　幸治	補習授業校

＜平成１３年（２００１年）度＞

委員長	福居　通彦	日商岩井	委　員	波田野　彰士	テルモ
委　員	安部　昌伸	松下電池	委　員	脇田　慶和	総領事館
委　員	土田　和徳	森村商事	委　員	溝淵　幸治	総領事館
委　員	増田　智行	三菱商事	委　員	棚橋　幸治	補習授業校

＜平成１４年（２００２年）度＞

委員長	喜多村　隆志	三菱商事	委　員	春名　利紀	住友商事
委　員	安部　昌伸	松下電池	委　員	溝淵　幸治	総領事館
委　員	土田　和徳	森村商事	委　員	大貫　雅雄	総領事館
委　員	清水　雄一	東京三菱銀行	委　員	吉崎　安浩	補習授業校

＜平成１５年（２００３年）度＞

委員長	立川　正博	松下エアコン	委　員	金子　春仁	総領事館
委　員	安部　昌伸	松下電池	委　員	大貫　雅雄	総領事館
委　員	清水　雄一	東京三菱銀行	委　員	吉崎　安浩	補習授業校
委　員	小菅　京子	ミライ・アパレル			

＜平成１６年（２００４年）度＞

委員長	飯田　博己	ミクニ	委　員	金子　春仁	総領事館
委　員	清水　雄一	東京三菱銀行	委　員	吉崎　安浩	補習授業校
委　員	田村　直美	インド味の素			

＜平成１７年（２００５年）度＞

委員長	吉田　茂	三菱商事	委　員	藤間　準	ミクニ
委　員	清水　雄一	三菱東京 UFJ 銀行(~2005.9)	委　員	金子　春仁	総領事館
委　員	中尾　光延	三菱東京 UFJ 銀行(2005.9~)	委　員	野辺　鉄也	補習授業校

＜平成１８年（２００６年）度＞

委員長	波多野　敦	森村商事	委　員	金子　春仁	総領事館(~2006.10)
委　員	中尾　光延	三菱東京UFJ銀行	委　員	鈴木　貞男	総領事館(2006.10~)
委　員	S.S.チャダ	ミライアパレル	委　員	野辺　鉄也	補習授業校

＜平成１９年（２００７年）度＞

委員長	波多野　敦	森村商事	委　員	S.S.チャダ	ミライアパレル
委　員	中尾　光延	三菱東京UFJ銀行	委　員	鈴木　貞男	総領事館
委　員	杉村　浩司	(株)阪急交通社	委　員	野辺　鉄也	補習授業校

＜平成２０年（２００８年）度＞

委員長	南　收	三菱商事	委　員	波多野　敦	森村商事
委　員	中尾　光延	三菱東京UFJ銀行	委　員	鈴木　貞男	総領事館
委　員	杉村　浩司	(株)阪急交通社	委　員	野辺　鉄也	補習授業校

＜平成２１年（２００９年）度＞

委員長	秋山　隆之	丸紅	委　員	服部　純也	三菱ふそうトラック・バス
委　員	姥ヶ崎　鉱之	森村商事	委　員	鈴木　貞男	総領事館
委　員	杉村　浩司	阪急交通社	委　員	野本　純一	補習授業校
委　員	貝沼　和彦	日産自動車			

＜平成２２年（２０１０年）度＞

委員長	古市　充	日産自動車	委　員	若宮　健治	日産自動車
副委員長	大塚　雅康	クボタ	委　員	鈴木　貞男	総領事館
委　員	田口　洋二	三菱商事	委　員	野本　純一	補習授業校
委　員	堀尾　洋司	双日			

＜平成２３年（２０１１年）度＞

委員長	谷口　健一	日産自動車	委　員	早間　純	コベルコ
副委員長	窪津　誠	クボタ	委　員	滝沢　雅美	総領事館
委　員	奥村　正志	日産自動車	委　員	古市　充	日産自動車
委　員	入江　茂雄	三菱商事	委　員	土井　英正	補習授業校

＜平成２４年（２０１２年）度＞

委員長	入江　茂雄	三菱商事	委　員	村田　和也	日産自動車
副委員長	早間　純	コベルコ	委　員	関谷　淳	日産自動車
委　員	窪津　誠	クボタ	委　員	高橋　毅	日産自動車
委　員	光常　祐樹	三井物産	委　員	滝沢　雅美	総領事館
委　員	奥村　正志	日産自動車	委　員	土井　英正	補習授業校
委　員	鳥飼　高行	東芝電気			

＜平成２５年（２０１３年）度＞

委員長	光常　祐樹	三井物産	委　員	半澤　陽	日産自動車
副委員長	鳥飼　高行	東芝ＪＳＷ	委　員	村田　和也	日産自動車
委　員	入江　茂雄	三菱商事	委　員	長谷川　真巳	名港ロジスティクスインド
委　員	奥村　功治	日産自動車	委　員	滝沢　雅美	総領事館
委　員	羽賀　史浩	日産自動車	委　員	末永　和彦	補習授業校
委　員	豊永　博英	豊田通商			

＜平成２６年（２０１４年）度＞

委員長	石塚　新也	伊藤忠商事	委　員	古川　卓也	スタンダードチャータード銀行
副委員長	羽賀　史浩	日産自動車	委　員	長尾　勝昭	日本貿易振興機構
委　員	奥村　功治	日産自動車	委　員	岡井　重樹	日産自動車
委　員	大澤　耕治	東京化成工業	委　員	村尾　燎	みずほ銀行
委　員	名取　秦	日産自動車	委　員	鈴木　優	補習授業校
委　員	田代　謙	日産自動車	委　員	徳丸　知都香	補習授業校

＜平成２７年（２０１５年）度＞

委員長	平　野　智　彦	東京海上日動火災保険	委　員	高　田　英　隆	フジテック
副委員長	村　尾　燎	みずほ銀行	委　員	吉　田　和　昭	伊藤忠ロジスティクス
委　員	岡　井　重　樹	日産自動車	委　員	松　岡　大　司	ヤマハ発動機
委　員	北　川　嘉　貞	日産自動車	委　員	石　坂　剛	NTT コミュニケーションズ
委　員	長　尾　勝　昭	日本貿易振興機構	委　員	向　晃　芳	ナイファースト
委　員	田　代　謙	日産自動車	委　員	谷　口　英　樹	キーエンス
委　員	古　川　卓　也	ＢＮＰパリバ	委　員	吉　川　容　司	補習授業校
委　員	大　澤　耕　治	東京化成工業	委　員	小　川　達　夫	補習授業校
委　員	伊　井　慎一郎	日産自動車			

＜平成２８年（２０１６年）度＞

委員長	豊永　博英	豊田通商	委　員	石坂　剛	NTT コミュニケーションズ
副委員長	西村　公宏	日産自動車	委　員	谷口　英樹	キーエンス
委　員	北川　嘉貞	日産自動車	委　員	浦本　大	三菱商事
委　員	田中　啓介	グローバル・ジャパン	委　員	佐野　隆博	いすず自動車
委　員	近藤　貴俊	ヤマハ発動機	委　員	梨本　健	東京化成工業
委　員	伊井　慎一郎	日産自動車	委　員	番場　俊光	アルソック
委　員	高田　英隆	フジテック	委　員	吉川　容司	補習授業校

＜平成２９年（２０１７年）度＞

委員長	浦本　大	三菱商事	委　員	三輪　剛	日産自動車
副委員長	加藤　顕	クボタ	委　員	永利　拓也	スリーボンド
委　員	合田　潤	ＫＰＭＧ	委　員	番場　俊光	アルソック
委　員	田中　啓介	グローバル・ジャパン	委　員	佐野　隆博	いすず自動車
委　員	岡　利治	日産自動車	委　員	髙橋　大輔	ヤマハ発動機
委　員	上田　浩人	三菱東京ＵＦＪ銀行	委　員	吉川　容司	補習授業校
委　員	相田　和賢	ＮＴＴコミュニケーションズ			

＜平成３０年（２０１８年）度＞

委員長	永利　拓也	スリーボンド	委　員	三輪　剛	日産自動車
副委員長	加藤　顕	クボタ	委　員	田中　一圭	ブリヂストン
委　員	合田　潤	ＫＰＭＧ	委　員	藤澤　秀麿	東北特殊鋼
委　員	岡　利治	日産自動車	委　員	堤　之義	コベルコ建機
委　員	木谷　信隆	みずほ銀行	委　員	大西　信成	ヤマハ発動機
委　員	上田　浩人	三菱東京ＵＦＪ銀行	委　員	吉本　卓	補習授業校
委　員	相田　和賢	ＮＴＴコミュニケーションズ			

Ⅶ　関係規則

１　チェンナイ補習授業校規則

昭和６２年３月１９日制定
平成２６年９月１６日改正

第１章　総則
第１条　名称
　この学校は、チェンナイ補習授業校（JAPANESE SCHOOL EDUCATIONAL TRUST OF CHENNAI)と言う。〔以下単に「学校」と称す〕【平成 17 年 3 月、教育信託団証書登録】

第２条　所在地
　学校を Inside the American International School Chennai,100 Feet Road , Taramani,Chennai 600113 に置く。

第３条　設立の目的
　この学校は、チェンナイおよびその近郊に在住する日本人子女等に対して、現地校の教育でおよばない日本人に必要な教育を文部科学省の示す学習指導要領を指針として行う。

第４条　学校の教育目標
　日本人として生きる誇りと自覚を育むために必要な、基本的素養を修得した上で、異なる文化・社会との協調を図ることのできる、真の国際感覚を持った児童生徒を育成する。

第５条　学校の教育方針
　この学校は、第４条の教育目標実現のため、次の各号に掲げる方針の達成に努める。
（１）日本語を正しく理解し、使用する能力を養う。
（２）人間相互の関係について正しく理解し、協同・自主及び自律の精神を養う。
（３）日本国の歴史・伝統及び現状について正しく理解する。
（４）国際協調の精神を理解する。
（５）数学的な思考力、応用力を養う。
（６）自然現象を科学的に観察し、理解・応用する能力を養う。
（７）生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸等についての基礎的な技能を養う。
（８）生活に必要な衣食住・産業に関する基礎的な知識と技能を養う。
（９）健康で安全な生活に必要な習慣を養い、心身の調和的発達を図る。

第２章　運営並びに運営組織
第６条　運営の責任
　学校運営の最終責任は、JAPAN SCHOOL EDUCATION TRUST OFCHENNAI の代表取締役（以下「代表取締役」という)、取締役二名（以下「取締役」という）に帰属する。
第７条　補習授業校評議員会
１．補習授業校評議員会（以下、「評議員会」という）は、六名の評議委員によって組織され、運営される。評議委員は、代表取締役、取締役のほか、チェンナイ日本人会会長、チェンナイ日本商工会理事、在チェンナイ総領事館職員をもって構成される。
２．評議員会は、学校運営の重要事項の処理につき、必要に応じ審議を行う。

第８条　学校運営委員会
１．学校の運営にかかる業務は、代表取締役及び取締役が、学校運営委員会（以下、運営委員会という）に委託する。

２．代表取締役は、各年度の初めに、チェンナイ日本人会会長に対して、運営委員長、及び、委員の推薦を依頼する。
　チェンナイ日本人会会長により推薦された委員長及び委員は、評議員会による審議を踏まえ、代表取締役及び取締役の総意のもと、代表取締役が任命する。
３．運営委員長及び運営委員は、運営委員会を組織する。

第９条　運営委員会の職務
１．運営委員会は次の職務を行う。
（１）本規則の改正案策定
（２）本規則に基づく細則の制定及びその改正案策定
（３）教育方針及び校務報告の承認
（４）当地において採用される教職員の任免に関する事項
（５）学校の予算及び決算に関する事項
（６）基金、寄付金及び借入金に関する事項
（７）重要資産の取得、処分に関する事項
（８）その他、学校運営に関する重要事項
２．運営委員会はその職務を遂行するにあたり、上記事項の処理等、必要に応じ評議員会の指導・承認を求める。
３．運営委員長は日本国総領事館の協力を得て、運営委員会の業務を総括する。

第１０条　運営委員会の開催、定数及び議事
１．運営委員会は必要に応じて運営委員長が招集し、開催するものとする。ただし、委員の 1/3 以上からの要求があったときは、運営委員長は臨時会議を開催しなければならない。
２．運営委員会は委員総数の 2/3 以上の出席をもって成立する。
３．議決は出席委員の過半数により行う。
４．運営委員会は必要に応じて、教員、監事、その他関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

第１１条　運営委員会の任期
１．委員の任期は１カ年とし、再任を妨げない。
２．任期途中に就任した委員の任期は、前任者の残任期間とする。
３．委員は任期満了後も後任者就任するまでは、その任務を行うものとする。

第１２条　運営委員会事務局
　運営委員会事務局（以下「事務局」と称する）を学校に置き、学校長は事務局と協力して運営委員会に関する事務を処理する。

第１３条　運営委員会の構成
　運営委員会に次の委員を置く。なお、下記各担当委員は運営委員会で各年度毎に選定する。
（１）委員長
（２）副委員長
（３）会計
（４）その他必要に応じ、委員長からの委嘱事項担当

第１４条　学校長
１．学校に学校長を置く。学校長は、本規則及び運営委員会の決定に基づき、校務を掌握し、所属教職員を指導・監督する。また児童生徒の教育管理を行い、在校中の安全を確保する。政府派遣教員が派遣されている場合、派遣教員がこの職にあたる。
２．学校長は、取締役を兼任する。

第１５条 会計監査
　評議員会は毎年度末、監査人を選び、会計監査を委嘱する。監査人と評議員会評議員及び学校運営委員の兼任は認めない。

第３章　学校運営
第１６条　修業年限
　この学校の修業年限は、初等６カ年、中等３カ年とする。

第１７条　入学資格
　本校の入学資格は、原則として、チェンナイ在住の入学希望学年の学齢にあたる日本人子女等で、次の条件に該当する者とする。ただし、第３条及び第４条に定める教育目的に照らし、入学が相当と認められる場合はこの限りではない。
（１）日本における、学校や社会生活への適応を目的としている者
（２）本校が実施する面接その他の審査の結果、日本語が一定水準に達しており、当該学年における学習に支障がないと判断できる国語力があると認められ、かつ、教師の指示を守って学習する意欲がある児童生徒であること。

第１８条　入学審査
　校長は、入学希望者の就学に際して必要な面接及び個人調査票の確認等を実施し、入学の可否につき、運営委員会に承認を得る。

第１９条　教育課程
　１．校長は本規則に基づき、現地の教育課程を勘案し、第３条及び第４条の達成に必要な教育課程の編成および学級編制、授業時間、学期、休業日、校務分掌等を運営委員会と協議の上、定める。
２．この学校の教育課程は、国語、算数（数学）を中心に、社会、理科、生活、及び、適宜それ以外の教科を加えて編成する。

第２０条　授業料及び入学金
　授業料および入学金は、各年度の初めに運営委員会が定め、評議員会に報告する。

第４章　財務
第２１条　財政
　この学校の財源は、国庫補助金、日本人会からの補助金、寄付金，児童、生徒の授業料等をもってこれに充てる。

第２２条　会計年度
　この学校の会計年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月３１日に終了する。

第２３条　財務規定
　この学校の財務は、別に定める。

第５章　教職員
第２４条　教職員の種類及び服務
　第１４条に定める学校長のほか、学校に次の教職員を置く。
（１）教員
　児童生徒の教育を行い、児童生徒の安全を確保し、校長の指導責任の下、校務事務を掌握する。
（２）事務員
　校務に関わる事務及び事務連絡、学校長、教員、運営委員会、保護者のサポートを行う。

第２５条　用務技師
　学校長は、運営委員会に相談の上、予算の範囲内で必要な用務技師を雇い入れることができる。

第６章　教職員服務規定

第２６条　目的

教職員は、学校設立の目的を理解し、自己の職分を誠実に遂行するとともに、互いに協力し、学校の発展に努力しなければならない。

第２７条　禁止行為

教職員は、次に掲げる行為をしてはならない。

（１）学校の名誉を毀損し、また利益を損ねること。
（２）児童生徒及びその家族に関し、校務上知り得た秘密（個人情報）を漏らすこと。
（３）学校長の許可なく校秘を漏らすこと。
（４）校務上必要である場合の他、みだりに学校の名前、自己の職名を使用すること。
（５）学校の秩序又は職場の規律をみだすこと。

第２８条　休日

休日は、原則、アメリカンスクール休日（運営委員会の判断により柔軟に対応する）。ただし、学校長の指示で出勤させる場合がある。

第２９条　年次有給休暇

１．教職員の休暇は「年次休暇」及び「特別休暇」とする。
２．年間１０日（起算日４月１日）を限度として年次休暇を認める。
３．年次休暇を受けようとする教職員はあらかじめその期間を定め、学校長の承認を求めなければならない。
４．特別休暇は、VISA の更新、結婚、出産、交通機関の事故その他の特別の事由により教職員が勤務しないことが相当である場合とし、その期間は学校長が必要と認める期間とする。
５．派遣教員については文部科学省の規定に準ずる。

第３０条　退職

１．教職員が退職する場合、３ケ月前に届出を学校長に提出し、運営委員会でその承認を得る。
２．教職員が退職等を命じられたときは、すみやかに担当の事務および保管文書、物品を後任者または学校長の指示した者に引き継がねばならない。
３．１０年以上勤務した教職員が本校を去る場合は、退職金を支給する。その額については運営委員会が定め、評議員会に報告する。

第３１条　報告の義務

学校長は、毎学期末に学校の運営についての総括を運営委員長に報告しなければならない。但し、その報告は、特に指示なき限り口頭をもって行うことができる。

第３２条　勤務時間

１．現地採用教員の勤務時間は月曜～金曜は午後２時から午後６時、土曜日は午前８時３０分より午後３時３０分までとする。但し、学校長の指示により指定勤務時間外での勤務を依頼する事もある。その場合、運営委員長の承認を得る事とする。
２．年間計画に示されていない勤務を行う場合、学校長と教職員で事前協議をし、休業日の振替等の調整を行う。
３．事務員等の就労規則は別に定める。

第３３条　研修

１．教員はその職責を遂行するため、絶えず研究と修養に努めなければならない。
２．教員は授業に支障のない限り、学校長の承認を得て、勤務場所を離れて本務に資する研修を行うことができる。

第３４条　懲戒

教職員が規則ならびに注意事項に違反した場合や児童・生徒への指導が著しく不足している場合等、学校長は注意指導を行う。

運営委員長は学校長または運営委員の意見等を元に、教職員に対して訓告、免職等の懲戒を加える事ができる。

運営委員長が、教職員に対して訓告、免職等の懲戒を加えた際には、評議員会に報告するものとする。

第３５条　授業記録、学習記録

教員は個々の児童・生徒の学習状況等を記録し、学習計画の立案・修正、保護者との教育相談の資料とする。

第３６条　日本人会との関係

教員は、本校が日本人会の協力により運営されていることに鑑み、特別の事情がない限り日本人会に所属する。

第７章　付則」

規則の制改廃は、評議員会の審議を経て、代表取締役及び取締役の承認をもって有効となる。

２　チェンナイ補習授業校における安全対策

１．目的

（１）不測の事態発生に備えて、児童生徒及び学校職員の安全の確保を図る。

（２）学校運営に支障がないように安全点検を行う。

２．想定される事態

（１）学校生活における傷害

（２）登下校、校外活動時

（３）不審な訪問者、不審電話

（４）暴動（暴徒）、誘拐、拉致

（５）風水害、天災（地震・津波など）

（６）その他

３．安全対策

（１）安全点検の実施（担当責任者：学校長）

月１回、月末に次の箇所の安全を点検し、必要に応じて修理・補強をアメスク側に要請する。

① 校舎内＝掲示物、諸設備（電気、水道等）

② 校舎外＝遊具、

③ 応急処置用具

④ 無線機、拡声器

４．共通理解事項

（１） 登下校及び校外活動時の不測の事態への対策

① 登校時

アメスクの登校にも関わらず、事前連絡なしに２時限以降も補習授業校に登校していない場合、担任が保護者に出欠確認する。

② 下校時

保護者または運転手が来ない場合、担任が保護者に連絡を取り、学校または知人宅等で待機させる。

③ 校外活動時

携帯電話等を携行するとともに保護者の付き添いを依頼する。

（２） 不審な訪問者、不審電話への対応

① 児童・生徒および保護者、教職員、運転手、総領事館職員、学校使用人、日本人会会員以外の者が事前連絡なしに来校した場合、警備員は来校者を敷地外で待機させ、学校長または職員の許可がない場合は立ち入らせない。

② 不審な電話があった時は、相手の氏名、電話番号、用件の概略を聞き、回答が必要な場合は、校長を通して連絡をする旨を伝え、即答は避ける。その後の対応については、職員で協議後、学校運営委員長、領事館へ連絡を取り、指示を仰ぐ。

（３） 暴動（暴徒）、誘拐、拉致への対策

① 学校に上記危機的状況が及んだ場合、職員は児童・生徒を校内の安全な場所に集め、状況の把握に努め、緊急無線機や携帯電話等を使って総領事館との連絡をとり、救援をあおぐ。

② 誘拐、拉致防止のために、下校時には保護者同伴で児童・生徒は下校すること。これ以外の特別な場合等のついては、保護者が担任等学校側に伝える。

（４） 風水害，天災（地震・津波）への対応

① サイクロンなどの風水害により道路冠水や倒木箇所などが発生し、児童・生徒の登下校の安全に支障があると予想される場合、学校運営委員長と協議の上、始業２時間前までに休校を決定し、緊急連絡網を通して、保護者に伝える。

② 授業開始後に風水害や天災による被害を受けた場合は、直ちに授業を中止し、学校運営委員長、総領事館、日本人会長に連絡し指示を仰ぐ。その後、必要に応じて保護者に引き取り依頼の連絡を行う。

※情報の一本化　学校運営委員長、総領事館、日本人会長の指示を仰ぐ。

③　保護者への連絡が取れない場合の待機児童には教職員がつく。

５．避難訓練の実施

① 年間２回　前期（４月)「地震・津波」後期（１０月)「暴漢侵入を想定し避難訓練を行う。

② 総領事館等から緊急連絡が入った場合（携帯電話、非常ベルまたはハンドマイク使用）

③ 担任教師の指示に従って安全な第一次避難場所（高地、グランド）へ移動する。

※津波等の場合は、AISC ３Ｆフロアに避難する。

※暴漢侵入等の場合は、教師と一緒に教室内に留まる。

６．緊急連絡の方法・関係諸機関との連携

① 緊急連絡網を作成・配布し、電話の近くに常掲するよう依頼する。
また転出入があった場合は、随時更新する。

② テレビ、新聞、インターネット、総領事館等、文部科学省等関係機関からの情報収集と連絡・問い合わせを緊密に行い、正確な情報収集・提供に努める。

７．重要書類、学校備品の管理

非常時には、下記書類及び備品を安全な場所（総領事館等）へ移動・保管する。

最重要：①要録(通知表含)、出席簿、学校印　②PC、ビデオ・デジタルカメラ

重　要：③文部科学省、外務省、海外子女教育振興財団書類、学校運営委員会文書、
校舎契約書、備品台帳（データボックスに収納）

８．派遣教員不在時の対応

非常事態に対して学校長が不在時は、講師がこの任に当たる。

９．係分担、避難訓練の計画等

職員会議等で別途提案、協議し決定する。

10. 傷害および賠償責任保険への加入

不慮の事態に備え、傷害･賠償責任保険へ加入する。

11. その他

アメスクの避難訓練実施に加えて独自に実施する。

・地震・津波への対応

・不審者・暴漢対策

チェンナイ補習授業校

Japanese School Educational Trust of Chennai.

Inside American International School Chennai
100 Feet Road, Taramani, Chennai 600 113

Tel / Fax +91-44-2254-2912
E-mail : jsetoc@jschennai.org.in

Copyright 2018 Japanese School Educational Trust of Chennai.